

国立民族学博物館研究報告 vol.10-1; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	10
号	1
発行年	1985-07-20
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009234

1985—10.1 卷 1 号

国立民族学博物館 研究報告

●
中央アンデスの農民と牧民の結婚

——パンパマルカ教区（アブリマク県）婚姻登録の分析——藤井龍彦，友枝啓泰

ボリビア北西部・アンデス東斜面のケチュア農村における環境利用

——アマレテ村の事例——木村秀雄

ユカテクマヤ語の正書法の歴史

——マヤ人の文字使用との関連において——八杉佳穂

「スバシ写本」の願望法語尾

——仏教サンスクリット成立の一局面——中谷英明

現代和服の変貌 II

——着装理念の構造と変容——大丸 弘



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

10 卷 1 号

1985 年

目 次

中央アンデスの農民と牧民の結婚 ——パンパマルカ教区（アプリマク県）婚姻登録の分析——……………	藤井龍彦…………… 1 友枝啓泰
ボリビア北西部・アンデス東斜面のケチュア農村における環境利用 ——アマレテ村の事例—— ……………	木村秀雄…………… 43
ユカテクマヤ語の正書法の歴史 ——マヤ人の文字使用との関連において—— ……………	八杉佳穂…………… 93
「スバシ写本」の願望法語尾 ——仏教サンスクリット成立の一局面—— ……………	中谷英明…………… 111
現代和服の変貌 II ——着装理念の構造と変容——……………	大丸 弘…………… 131
彙 報……………	233
国立民族学博物館研究報告寄稿要項……………	239
国立民族学博物館研究報告執筆要領……………	240

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 10 No. 1

1985

FUJII, Tatsuhiko TOMOEDA, Hiroyasu	Marriage Relations between Agriculturalists and Pastoralists in the Central Andes: The Case of Pampamarca Parish, Apurimac, South Central Peru	1
KIMURA, Hideo	Environmental Exploitation on the Eastern Slope of the Central Andes: A Case of Amarete, Northwestern Bolivian Highland	43
YASUGI, Yoshiho	A Brief History of the Orthographic Change among the Yucatec Maya	93
NAKATANI, Hideaki	An Analysis of the Optative Endings of the Subaši manuscript of Udānavarga	111
DAIMARU, Hiroshi	The Metamorphosis of the Modern Kimono II	131

彙報 (昭和60年1月～
昭和60年3月)

人事異動

- (行政職) (昇任)
3月1日 管理部会計課課長補佐
本田 信一
(管理部会計課主計係長)
(教育職) (昇任)
3月16日 第一研究部助教授 長野 泰彦
(第一研究部助手)
第三研究部助教授 大森 康宏
(第三研究部助手)
(停年退職)
3月31日 第五研究部教授 岩田 慶治

シンポジウム

◎「現代日本文化における伝統と変容」シン
ポジウム 日本人の人間関係

日時 昭和60年2月20日(水)～22日(金)

場所 国立民族学博物館

摘要 本館では「現代日本文化における伝統
と変容」をテーマに特別研究を行って来た
が、本年は「日本人の人間関係」をそのテ
ーマとして、シンポジウムを行った。その
内容は、家庭、地域、学校、職場、寄り合、
情報、社縁七つの領域における近世以降の
日本社会の変化と、それにともなう人間関
係の変化についてである。

シンポジウム委員会

- 栗田 靖之 国立民族学博物館第二研究
(委員長) 部助教授
守屋 毅 国立民族学博物館第一研究
部助教授
端 信行 国立民族学博物館第三研究
部助教授
杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究
部助教授
森田 恒之 国立民族学博物館第五研究
部助教授
久保 正敏 国立民族学博物館第五研究

- 部助手
水口 修 国立民族学博物館管理部庶
務課共同利用係長
河合 昌子 「伝統と変容」事務局

参加者

1. 報告者

- 井上 忠司 甲南大学(民博客員教官)
岩田 龍子 武蔵大学
上野千鶴子 平安女学院
梅棹 忠夫 国立民族学博物館
奥野 卓司 京都芸術短期大学
熊倉 功夫 筑波大学
栗田 靖之 国立民族学博物館
小山 修三 国立民族学博物館
杉田 繁治 国立民族学博物館
園田 英弘 京都大学
高田 公理 愛知学泉大学
端 信行 国立民族学博物館
福田アジオ 国立歴史民俗博物館
藤井 知昭 国立民族学博物館
藤田 英典 名古屋大学
山路 勝彦 関西学院大学

2. 討論参加者

- 石毛 直道 国立民族学博物館
石森 秀三 国立民族学博物館
祖父江孝男 放送大学
竹村 卓二 国立民族学博物館
鳴海 邦碩 大阪大学
松山 利夫 国立民族学博物館
森田 恒之 国立民族学博物館
守屋 毅 国立民族学博物館
米山 俊直 京都大学

日程

2月20日(水)

- 10:30 (司会 竹村 卓二)
あいさつにかえて 梅棹 忠夫
問題提起：日本人の人間関係
栗田 靖之
13:15 <家庭>(司会 石森 秀三)
家庭内の人間関係 山路 勝彦
共同体から共遊体へ 端 信行

- 15:30 <地域> (司会 松山 利夫)
「番」と「衆」—地域社会と個人
福田アジオ
選挙と人間関係—香川県Q市の場
合一 小山 修三

2月21日(木)

- 10:00 <学校> (司会 森田 恒之)
学閥と人間関係 園田 英弘
教育コミュニケーションの変化と
日本文化の変容 藤田 英典
13:15 <職場> (司会 祖父江孝男)
間柄志向と集団志向 岩田 龍子
「気くばりのすすめ」の売れゆき
が意味するもの 高田 公理
15:30 <寄り合> (司会 石毛 直道)
芸能と家元制度 熊倉 功夫
クラブ型社会の可能性
藤井 知昭

2月22日(金)

- 10:00 <情報> (司会 守屋 毅)
シミュレーションとしての人間関
係—情縁社会の若者—
奥野 卓司
人間関係の情報構造 杉田 繁治
13:15 <社縁> (司会 端 信行)
選べる縁・選べない縁
上野千鶴子
社縁の人間関係 井上 忠司
15:30 総括討論 (司会 栗田 靖之)

◎「近代世界における日本文明」

—統治機構の比較文明学—

日時 昭和60年3月4日(月)—11日(月)
場所 国立民族学博物館, 東洋紡績総合研究
所求是荘

摘要 谷口国際シンポジウム文明学部門は,
1983年から毎年、「近代世界における日本
文明」という大きなテーマのもとにシンポ
ジウムをひらき, 新しい研究領域の開拓に
着手してきた。今回のテーマは「統治機構
の比較文明学」であり, 主として東アジア
世界における国家統治機構の比較をともし

て, 現在の世界における日本文明の占める
位置について討論をおこなった。

組織委員会

委員長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

委員

竹村 卓二 国立民族学博物館第一研究
部長

佐々木高明 国立民族学博物館第二研究
部長

伊藤 幹治 国立民族学博物館第三研究
部長

加藤 九祚 国立民族学博物館第四研究
部長

岩田 慶治 国立民族学博物館第五研究
部長

秦 明夫 国立民族学博物館管理部長

専門委員

ヨーゼフ・クライナー

ボン大学日本文化研究所長

ハルミ・ベフ スタンフォード大学教授

実行委員会

委員長

松原 正毅 国立民族学博物館第二研究
部助教授

端 信行 国立民族学博物館第三研究
部助教授

小川 了 国立民族学博物館第三研究
部助教授

石毛 直道 国立民族学博物館第四研究
部助教授

石森 秀三 国立民族学博物館第四研究
部助手

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究
部助教授

磯村 紘 国立民族学博物館庶務課長

湯浅 勲子 財団法人千里文化財団専務
理事

宇治日出二郎 財団法人千里文化財団事
業部長

参加者

Harumi BEFU Stanford University

金 宅 圭 嶺南大学校文科大学

Josef KREINER Universitat Bonn

Kurt W. RADTKE Rijksuniversiteit te
Leiden

Eleanor WESTNEY M.I.T.

梅 棹 忠夫 国立民族学博物館

鈴木 董 東京大学東洋文化研究所

端 信行 国立民族学博物館

濱下 武志 東京大学東洋文化研究所

藤井 譲治 京都大学人文科学研究所

松原 正毅 国立民族学博物館

矢野 暢 京都大学東南アジア研究セン
ター

日 程

3月4日(月) (千里阪急ホテル)

17:00 受付

3月5日(火) (国立民族学博物館)

10:00 (司会 松原 正毅)

開会式

基調講演 梅 棹 忠夫

セッション1・2

(座長 ヨーゼフ・クライナー)

13:00 日本近世社会における官僚と軍隊
藤井 譲治

14:00 討論

15:15 The Emulation Western Organi-
zational Forms in Meiji Japan
エレノル・ウエストニー

16:15 討論

3月6日(水) (国立民族学博物館)

セッション3 (座長 矢野 暢)

10:00 Power in Exchange: Considera-
tion of the Relationship between
Personal and Institutional Power
in the Framework of Social Ex-
change ハルミ・ベフ

11:00 討論

セッション4 (座長 藤井 譲治)

13:00 統治機構の比較文明学：日本と中
国 クールト・ラドケ

14:00 討論

セッション5 (座長 金 宅 圭)

15:15 朝貢と移民—中国の対外統治と日
本— 濱下 武志

16:15 討論

3月7日(木) (国立民族学博物館)

セッション6 (座長 端 信行)

10:00 韓国近世の統治機構 金 宅 圭

11:00 討論

セッション7 (座長 濱下 武志)

13:00 遊牧国家における統治機構

松原 正毅

14:00 討論

3月9日(土) (求是荘)

セッション8 (座長 松原 正毅)

13:00 オスマン帝国の統治機構—その比
較史的分析— 鈴木 董

14:00 討論

セッション9

(座長 ハルミ・ベフ)

15:15 統治の経済学—「所有」と支配を
めぐって— 端 信行

16:15 討論

3月10日(日) (求是荘)

セッション10 (座長 鈴木 董)

10:00 東南アジアにおける「支配」と
「統治」 矢野 暢

11:00 討論

総括討論 (座長 松原 正毅)

13:30 総括討論

17:00 閉会式

3月11日(月) (ホテルレークビワ)

解散

◎日本民族文化の源流の比較研究シンポジウ
ムⅥ

『民間伝承』

日時 昭和60年3月13日(水)—16日(土)

場所 国立民族学博物館

摘要 この特別研究は、日本民族文化の形成
・発展の道筋を考える上で提起される様々
の問題を、周辺民族との比較を通じて、速

心的・求心的に研究しようとする10年計画のプロジェクトである。

今回のシンポジウム『民間伝承』もこの線に沿って行われ、先ず日本古代・中世が、次に北アジア、中国、東南アジア等の伝承が比較的観点から論じられ、構造と機能及び系譜の問題がしめくくりとして検討された。

シンポジウム委員会

- 君島 久子 国立民族学博物館第一研究
(委員長) 部教授
友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究
(副委員長) 部助教授
永ノ尾信悟 国立民族学博物館第二研究
部助手
黒田 悦子 国立民族学博物館第四研究
部助教授
重松真由美 国立民族学博物館第一研究
部助手
庄司 博史 国立民族学博物館第三研究
部助手
長野 泰彦 国立民族学博物館第一研究
部助手
八杉 佳穂 国立民族学博物館第四研究
部助手
水口 修 国立民族学博物館管理部庶
務課共同利用係長
由井紀久子 「源流」事務局

参加者

1. 報告者

- 浅井 亨 富山大学
荒木 博之 広島大学
伊藤 清司 慶応義塾大学
大林 太良 東京大学
荻原 真子 国際商科大学
小澤 俊夫 筑波大学
君島 久子 国立民族学博物館
田中 克彦 一橋大学
田村 克己 金沢大学
野村 純一 国学院大学
長谷川 清 上智大学博士課程
福田 晃 立命館大学

- 松前 健 立命館大学
村井 信幸 東京高等学校
山下 欣一 鹿児島経済大学
吉川 利治 大阪外国語大学
崔 仁 鶴 Choi In-hak
韓国 仁荷大学校
郎 櫻 Lan Ying
中国 中国社会科学院少数
民族文学研究所
張 紫 晨 Zhang Zi-chen
中国 北京師範大学

2. 討論者

- 梅棹 忠夫 国立民族学博物館
永ノ尾信悟 国立民族学博物館
遠藤 庄治 沖縄国際大学
大島 建彦 東洋大学
黒田 悦子 国立民族学博物館
佐々木高明 国立民族学博物館
重松真由美 国立民族学博物館
庄司 博史 国立民族学博物館
武田 正 米沢東高等学校
友枝 啓泰 国立民族学博物館
直江 広治 清泉女子大学
長野 泰彦 国立民族学博物館
藤井 知昭 国立民族学博物館
丸山 顕徳 四條畷学園女子短期大学
八杉 佳穂 国立民族学博物館
吉田 敦彦 学習院大学
Naumann, Nelly

ドイツ フライブルグ大学

- 譚 達 先 Tam Tat-sin
香港 香港中文大学校

日 程

3月13日(水)

- 13:30 (座長 佐々木高明)
館長挨拶 梅棹 忠夫
問題提起 君島 久子
15:00 日本 (1) (座長 遠藤 庄治)
神話語りの形式と伝統
松前 健
中世の神話的伝承—「甲賀三郎」
「百合若大臣」をめぐる一

福田 晃

3月14日(木)

- 10:00 日本(2)(座長 武田 正)
昔話伝承の特性—禁忌を巡って—
野村 純一
南島の民間説話をめぐる二、三の
問題 山下 欣一
- 13:00 東アジア(座長 大島 建彦)
アイヌ民間伝承の概観
浅井 亨
韓国のイェンナル・イヤキ
崔 仁 鶴
- 15:00 北アジア(座長 直江 広治)
アムール川地域の神話世界—創世
神話を中心として— 荻原 真子

3月15日(金)

- 10:00 北アジア(座長 大林 太良)
ブリヤート、ヤクートの伝承にお
ける天降りモチーフ 田中 克彦
中国(1)(座長 大林 太良)
中日両国の継子譚の比較研究
張 紫 晨

中国少数民族のトーテム神話伝説
及び日本への流伝 郎 櫻

- 13:00 中国(2)(座長 長野 泰彦)
中国の民間伝承と日本—羽衣・浦
島を軸として— 君島 久子
西南中国少数民族の創世神話—ナ
シ族の「人類遷徙記」を中心とし
て— 村井 信幸
雲南少数民族の政治統合と建国神
話 長谷川 清
- 15:00 東南アジア(座長 丸山 顕徳)
タイの異郷訪問説話 吉川 利治
ビルマの精霊信仰と民間伝承
田村 克己

3月16日(土)

- 10:00 構造と機能(座長 友枝 啓泰)
日本昔話の構造 小澤 俊夫
日本昔話の機能 荒木 博之
- 13:00 系譜(座長 吉田 敦彦)
日本神話の系譜 大林 太良
日本昔話の系譜 伊藤 清司
- 15:00 総括討論(座長 君島 久子)

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
大丸 弘	助教授(第五研究部)	60. 1. 11	60. 3. 11	連合王国
野村 雅一	助教授(第五研究部)	60. 1. 15	60. 9. 14	イタリア, フランス
梅棹 忠夫	館長	60. 2. 3	60. 2. 17	中華人民共和国
杉本 尚次	教授(第五研究部)	60. 2. 3	60. 2. 17	中華人民共和国
周 達生	助教授(第一研究部)	60. 2. 3	60. 2. 17	中華人民共和国
藤井 知昭	教授(第二研究部)	60. 2. 25	60. 3. 2	インドネシア共和国
石毛 直道	助教授(第四研究部)	60. 3. 11	60. 3. 18	中華人民共和国
杉田 繁治	助教授(第五研究部)	60. 3. 22	60. 3. 29	アメリカ合衆国, カナダ
守屋 毅	助教授(第一研究部)	60. 3. 29	60. 4. 8	中華人民共和国, 香港

来館者抄

- 1月17日 松田 智雄(東京大学名誉教授)
- 1月21日 KUNROWJOYO(インドネシア, ガ
ジャマダ大学文学部歴史学科講
師)
- 2月5日 鄭 義 淑(韓国, 梨花女子大学
校総長)
- 尹 厚 淨(韓国, 梨花女子大学
校法・政治学長)
- 2月8日 陳 奇 祿(台湾, 台湾大学教授)
- 3月7日 宮地伝三郎(京都大学名誉教授)
- 3月7日 洪澤 雅英(財団法人MRAハウ
ス代表理事・イースト・ウエスト・
セミナー代表理事)

- 関口 末夫 (大阪大学社会経済研究所教授)
- 3月15日 張 紫 晨 (中国, 北京師範大学副教授)
- 郎 櫻 (中国, 中国社会科学院少数民族文学研究所)
- 3月16日 西川 治 (東京大学教養学部教授)
- 3月20日 James D. BURKE (アメリカ合衆国, セントルイス美術館長)
- 3月21日 中国文化部文物事業管理局
- 謝 辰 生 (顧問)
- 童 正 洪 (弁公室主任)
- 陸 日 民 (外事処通訳)
- 3月23日 中国内蒙古呼和浩特中小企業考察団
- 団長 趙 国 桓 (内モン自治区呼和浩特市計画委員会副主任, 呼和浩特市人民政府經濟開發引進弁公室主任)
- 副団長 王 永 夫 (内モン自治区呼和浩特市經濟委員会副主任)
- 秘書長 趙 国 興 (内モン自治区呼和浩特市人民政府外事弁公室)
- 3月25日 Supanawan CHERNYOD (タイ, タイユネスコ国内委員会事務局職員)
- Jeannette TUASON (フィリピンユネスコ国内委員会事務職員)
- 3月26日 Philip J. BOSSERT (アメリカ合衆国, ハワイ・ロアカレッジ学長)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330.

Bohannon, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』 岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthro-
pology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The Uni-
versity of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 10卷1号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

加 藤 九 祚

〔編集委員〕

永ノ尾 信 悟

大 塚 和 夫

君 島 久 子

ケネス・ラドル

杉 村 棟

友 枝 啓 泰

垂 水 稔

長 野 泰 彦

藤 井 龍 彦

松 原 正 毅

和 田 正 平

昭和60年7月20日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 10卷1号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.10 no.1
1985

- FUJII, Tatsuhiko **Marriage Relations between Agriculturalists
TOMOEDA, Hiroyasu and Pastoralists in the Central Andes: The Case
of Pampamarca Parish, Apurimac, South Central Peru**
- KIMURA, Hideo **Environmental Exploitation on the Eastern
Slope of the Central Andes: A Case of
Amarete, Northwestern Bolivian Highland**
- YASUGI, Yoshiho **A Brief History of the Orthographic Change
among the Yucatec Maya**
- NAKATANI, Hideaki **An Analysis of the Optative Endings of the
Subaši manuscript of Udānavarga**
- DAIMARU, Hiroshi **The Metamorphosis of the Modern Kimono II**



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X